

外貿コンテナ取扱個数 47,889TEU

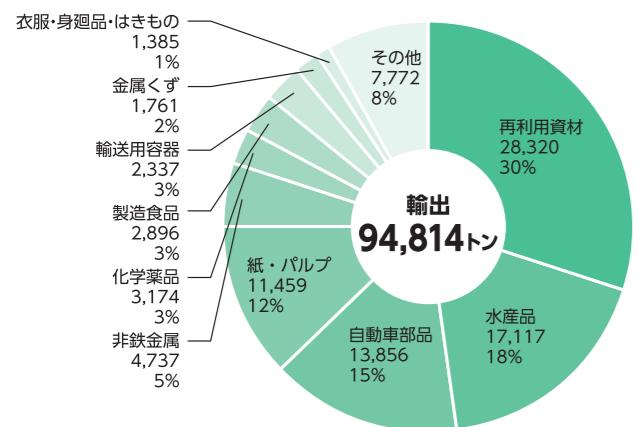
外貿コンテナ取扱個数	
輸出	23,803TEU (対前年比89.9%)
輸入	24,086TEU (対前年比89.5%)
合計	47,889TEU (対前年比89.7%)

外貿コンテナ貨物量	
輸出	94,814トン (対前年比67.1%)
輸入	158,432トン (対前年比86.4%)
合計	253,246トン (対前年比78.0%)

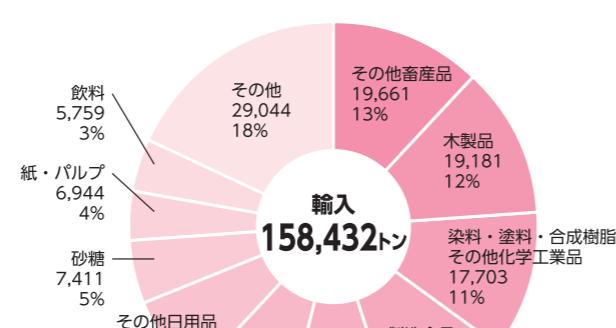


▲コンテナサービスを開始した南星海運のコンテナ船「STAR PIONEER」

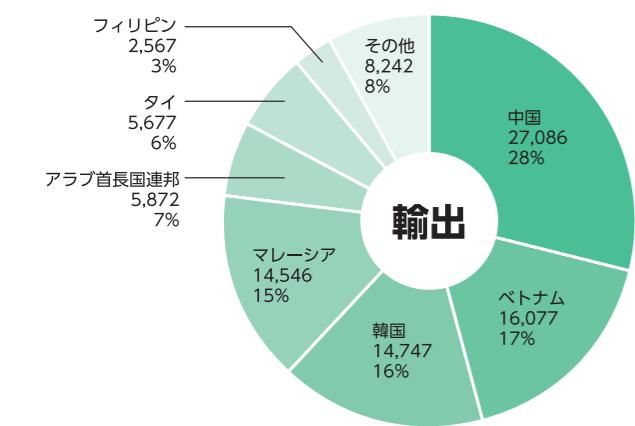
2019年(令和元年)外貿コンテナ貨物 品目構成



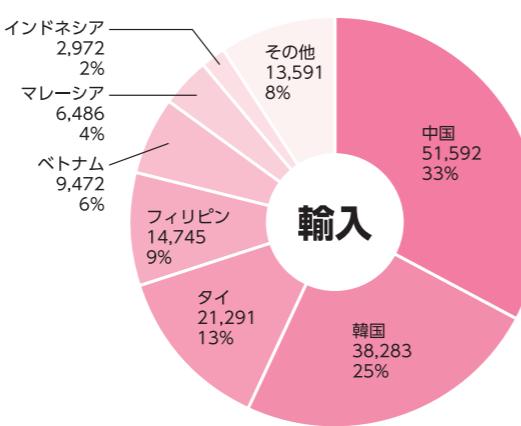
速報値 (単位:トン)



2019年(令和元年)外貿コンテナ貨物 国別構成



速報値 (単位:トン)



MARINE PRESS

ISHIKARI BAY NEW PORT NORTHERN PORT DAZZLING THE WORLD FROM ISHIKARI



Vol.50

2020 2

石狩湾新港管理組合
石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会
北海道石狩市新港南2丁目725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
<http://www.ishikari-bay-newport.jp>

取扱貨物量 過去最高を更新

取扱貨物量 680万3,381トン 7年連続過去最高

2019年(令和元年)の取扱貨物量

輸出	28万5,217トン (対前年比 75.9%)
輸入	405万6,246トン (対前年比112.8%)
移出	34万9,240トン (対前年比 96.5%)
移入	211万2,678トン (対前年比 91.6%)
合計	680万3,381トン (対前年比102.4%)

貨物量5年間の推移



2019年(令和元年)の取扱貨物量は、680万3,381トン(対前年比102.4%)となり、7年連続で過去最高を更新しました。

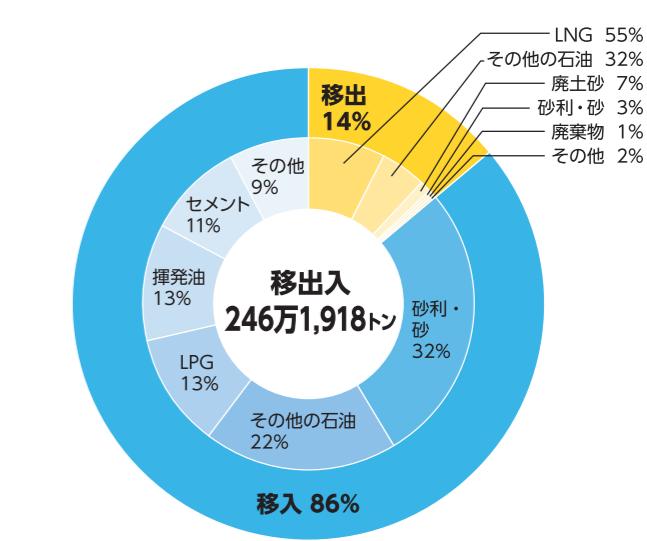
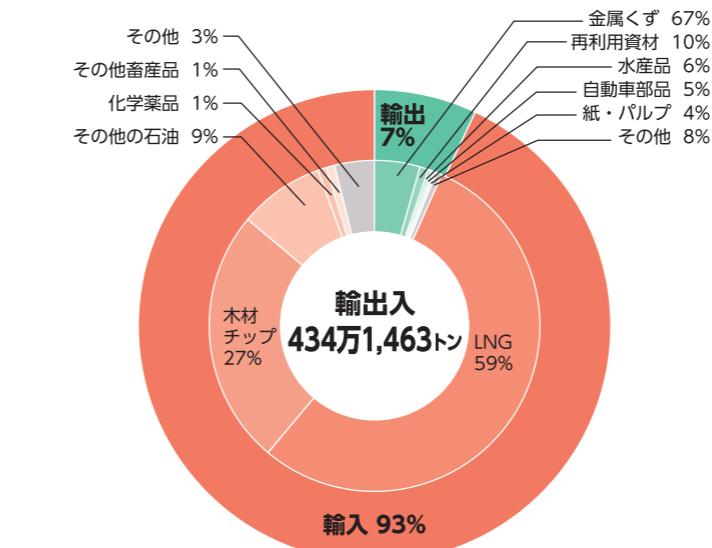
特に火力発電用燃料としてLNG(液化天然ガス)の取扱量が大きく伸びており、今後、LNG火力発電所の増設も計画されていることから、一層の増加が期待されます。



▲LNGの輸入が増加(前年比132.4%)

2019年(令和元年)取扱貨物 品目構成

速報値



北海道産品の輸出拡大に向けて

ISHIKARI BAY NEW PORT

SAPPORO

海外での日本食への関心の高まりなどを背景に、北海道産食品のさらなる輸出拡大が見込まれる中、石狩湾新港は、北海道経済の中心地である札幌圏に位置し、港の背後には北海道最大級の冷凍冷蔵倉庫群が形成されるなど、道産食品の輸出拠点としての役割が期待されています。

今号では、石狩湾新港を活用した輸出事例を紹介します。

特集

生産者の所得向上に寄与すべく輸出拡大を目指します

ホクレン農業協同組合連合会

米穀事業本部 パールライス部 パールライス総合課

課長 花田 大丈 氏



事業内容について

当連合会は、「わたしたちは生産者のための協同組合として、会員JAと連携した事業を通じ、共生の大地北海道から「農」と「食」の未来を担います。」を経営理念として掲げ、JAの経営事業を担うことを目的として設立された組織です。

の中でも米穀事業本部パールライス部は、道内の精米販売を中心とし、さらにアジア圏への輸出を強化し、北海道米の販売数量拡大を目指しています。



▲ホクレンパールライス工場(石狩市)

輸出事業について

当部門では、国内の高齢化、人口減少や食の多様化による米消費量減少などの将来的なマーケットの縮小が心配される中、安定した農業経営と所得向上に向けて国内需要の確保に取り組む一方、中国を含む海外市場への戦略的な取り組みが重要と考えています。

そのような中、平成30年5月にパールライス工場が「品質」「衛生」「生産」などの工場の運営管理体制を評価いただき、国内2番目の中国向け輸出精米工場として指定されました。

同年9月には、北海道知事や関係各位を招いた中で「中国向け北海道米輸出記念式典」を開催し、参加の方々より多くのお祝いのお言葉やさらなる輸出拡大に向けた取り組みについてコメントをいただ

き、同月中国大連港に向けて北海道米を出荷、以来北海道米を中心に順調に中国向け輸出を拡大しています。



▲北海道米輸出記念式典

今後の取り組みについて

引き続き石狩湾新港をはじめとする関係機関等のご協力をいただきながら、生産者の所得向上に寄与すべく、市場調査を継続し、販売ルートの開拓と新たな需要確保に取り組みます。

中国向け精米輸出においては、指定倉庫でのくん蒸が必要であるなど、コスト・労力がかかるため、生産面では低コスト・多収栽培の導入促進などが今後の課題です。

各種課題解決に向けて、引き続き関係機関の協力をお願いしていくとともに、海外市場への開拓をより一層進め、世界の人々に石狩湾新港から出荷した北海道米を是非召し上がっていただきたいと考えています。



▲虹桥展示場(上海市)で北海道米をPR

TOPICS



南星海運株金社長

南星海運 コンテナサービスを開始

1月12日から、南星海運株による本港でのコンテナサービスが開始されました。同月28日には、石狩湾新港外貨貨物利用促進協議会による記念式典が開催され、南星海運株はじめ、道内の荷主企業や関係する行政機関など約100名のご出席をいただきました。南星海運株の金社長は、「石狩湾新港でのサービス開始は当社にとって20年来の悲願。連携を深め、より良いサービスを提供したい。」との抱負を述べられました。

このサービスにより、札幌圏の物流拠点である本港の利便性が一層高まります。皆様のご利用をお待ちしています。

札幌ラーメンの食文化を30の国と地域へ発信

西山製麺株式会社

代表取締役社長 西山 隆司 氏



2016年にはアメリカに『Nishiyama Ramen USA Inc.』、2019年にはシンガポールに『Sapporo Nishiyama Singapore Pte. Ltd.』を設立しお客様へのサービス強化を行いました。

西山製麺は、札幌ラーメンの魅力を伝えるため、お客様の悩みをひとつひとつ解決しています。2014年にはドバイ首長国で「ムスリム対応のラーメン」の認可(日本初)を得ています。今では30の国と地域で



▲札幌味噌ラーメン

直接取引ができるまでになりました。ラーメンは、人気の食材をトッピングすることもでき、国籍、年齢、性別に関係なく人を笑顔にする力を持った料理です。1杯1杯、お客様と一緒につくりあげる、それが私たちの誇りです。

始まりは1軒の屋台から ~西山ラーメンの誕生~

1955年、西山製麺の創業者「西山孝之」は、誰が食べても、美味しいラーメンをという想いから、「多加水熟成製法」「卵入りラーメン」「縮れ麺」を完成させました。小麦粉の特性を最大限に活かす多加水熟成製法はもちもち食感で切れにくく、卵入りラーメンは食欲をそそる黄色でスープに浸かって伸びにくい効果を創り、縮れ麺はスープが絡み、箸でく上げやすく、器の底に沈まないことから綺麗な盛付けができるようになりました。

現在、北海道の素材の商品開発、品質保証体制の確立へと突き進んでいます。1980年に良質な地下水がある札幌市白石区に本社工場を移設し、その後北海道小麦を使った麺、北海道食材の調査等の研究開発を行っています。また、品質保証体制については、既に認証取得した北海道HACCP、FSSC22000(大量生産ライン)に続き、茹で麺などの未登録の製造ラインについても登録を目指しています。



▲麺の切り出し



▲木箱入り麺

世界が注目する日本食 ~札幌ラーメン~

札幌ラーメンは、数ある食品のなかにあって、特別人気の高い食べ物のひとつと考えています。札幌では人が集まる自然とラーメン談義に花が咲く光景をみることができます。それはラーメンには人々の心をなごませる不思議な力があるからではないでしょうか。今や札幌ラーメンは日本の食文化のひとつにまで成長しました。

札幌ラーメンの歴史は、1955年頃の屋台ラーメンが始まりと言われています。多くの道民に愛されて2001年には「北海道遺産」に北海道ラーメンが登録されるまでになりました。

1975年から海外に向けた札幌ラーメンの輸出が始まりました。2014年にはドイツに『SAPPORO NISHIYAMA EUROPE GmbH』、

石狩湾新港の活用 ~生産拠点と物流~

石狩湾新港は札幌に生産拠点を持つ私たちにとって、近距離の陸上輸送のメリットを最大限に活かすことができる港です。余剰在庫を抑えることで保管費用を圧縮し、陸上輸送時間を生産時間に転嫁することで労働生産性を高めることが可能となりました。海外に向けて販路拡大、将来的な原料調達についてもアジアとの便数が多い石狩湾新港は魅力的な港です。



▲西山製麺株式会社